

鷹匠プロジェクト、パサージュIIなど ランドマーク計画が着々と進行中 人を魅了する建物、文化を 創りだす建物とは何か

企業概要

- 所在地 / 〒424-0886 静岡市清水区草薙3-5-12 TEL.054-345-6000
- 設立 / 1990年6月
- 従業員数 / 18名
- 代表取締役 / 吉川 均
- 事業内容 / マンション・病院・RC住宅・木造住宅・商業施設・店舗の設計施工、土地有効活用計画、資産運用計画、ファイナンシャルプランニング、不動産売買、輸入家具、輸入キッチン販売
- URL <http://infini-homes.com>

アンフィニホームズ株式会社

「建物とは賑わいを生み出すための装置であり、建物が文化を創り、人を魅了し、新たなイノベーションを創造する。そんなランドマークを創っていきいたい」と語る吉川 均氏。鷹匠という街を象徴する存在として、その後の街のイメージを決定づけた“PASSAGE TAKAJO”の増床計画をはじめ、青葉横町と両替町の一画に“BROOKLYN MODERN”をコンセプトとした商業施設の建設計画など、吉川氏が提唱するランドマーク・プロジェクトが着々と進行している。その目的や、今後の街づくりにおける重要なテーマとなる「人を魅了する建物」とは何か、街の文化を育み、その場所から新しいイノベーションが生まれる「文化を創りだす建物」とは何か、従来の街づくりの概念とは異なる切り口から、これまでにない新しい街づくりを提唱する吉川 均氏に話を聞いた。

街のランドマークとは、人の興味を引く魅力的な建物。パサージュを手がけた目的と、その狙いとは、どのようなものなのでしょうか。

吉川 街のランドマークとは、その街の身の丈に合ったもの、例えば、街の持つ雰囲気であり、周囲の環境と調和した佇まいであり、その街に自然と溶け込むようなものを指す。概念論になってしまいが、その建物にまた行きたいと思わせ、その場所に少しも滞在したいと思わせる人の興味を引く魅力的な建物をランドマークと位置づける。手前味噌だが、その先駆けとなったのがPASSAGE TAKAJOと考えている。便宜上、パサージュIIと呼んだけれんが、この建物は敷地内を通過して裏通りに抜けられる小道（パサージュ）を造ること、自分だけのお気に入りの場所を見つけての楽しさを提案した。鷹匠という街の特性をイメージした時に、外観はコート

ジュールやスペインのマラガといった南ヨーロッパの雰囲気がこの街には似合うと考え、1000年経っても色褪せず、建物自体の経年変化が1つの味わいとなり、そこに暮らす人たちの営みが文化となるような建物を目指した。だからこそ素材には本物を追求し、1つ1つの素材に至るまでこだわりを貫いた。完成から3年になるが、オープン時からメディアが頻繁に取りあげてくれることもあり、その宣伝効果や社会的認知は計り知れないものがある。いまもパサージュIに対するメディアの関心は高く、店舗に空きがあればすぐにでも入居したいというニーズがあることは、この建物に深く関わった者としての誇りにもなっている。

パサージュIIは鷹匠という街におけるランドマークの最終形態。では、パサージュIIの概要についてお聞かせください。

「BROOKLYN MODERN」をコンセプトとした商業施設にも着目

人に優しく、人が集う建物を創る。とは何か、具体的にお聞かせください。

吉川 これまでの住宅建築では無駄をそぎ落とし極力、ミニマルな方向性を追求してきたわけだが、いまの潮流に当て嵌めてみると、人に優しいもの、コストをかけずに美味しいものを提供するという本物嗜好という言葉が、いまの時代を的確に表現していると思う。建物も同じように、100年、200年後も人々を魅了する本物の建物とは、経年変化の味わいが街並みの歴史と同化し、訪れる人たちの心を捉えて離さない、そんな普遍的な価値観を備えた建物の集合体を指すのではないだろうか。その1つが、PASSAGE TAKAJOであり、その発展型が現在、青葉横町と両替町で進んでいるBROOKLYN MODERNをコンセプトとした商業施設の計画だ。これは、資金的に余裕のない若者が独自のアイデアと自分のライフスタイルを表現する手段としてはじめて小さな店が、年月を重ねるにつれてその規模を上げていくような、先鋭的であり、個性的な起業家たちが集まる魅力的な建物であり、その建物を持つ味わいや雰囲気といったものが、地域ならではのカルチャーを生み出し、そこにユニークなアイデアをたず

初より計画していたが、前例がないだけに、資金面や事業計画の面でも不測の事態に備えるため、まずはパサージュIを軌道に乗せることが最重要事項となった。全面的に弊社のプランに賛同し、全幅の信頼を寄せてくれるオーナーがいたからこそだが、これからの街づくりに二石を投じたいという野心もあった。パサージュIIは鷹匠という街におけるランドマークの最終形態となるわけだが、パサージュIの時に造った小道を挟んでシンメトリーな建物が目の前に広がるその様は、人を感動させる美しさがあり、まさに人を呼び込むために造られた建物といつても過言ではないだろう。小道が建物の中央から広がっていくことにより、中庭のような開放的なスペースが生まれ、椅子やテーブルを置けばちょっとしたカフェにもなる。店舗形態としては入居する起業家の資金やアイデアに寄り添えるように可変性のあるものとし、2階にはパサージュ



ユIと接続回遊できる渡り廊下をつなげる。約150坪のコンパクトな敷地のなかに、横に拡がりを持たせた新しい形態の建物に20店舗のユニークな店が軒を連ねる。可変性のある店舗形態としたのも、家賃収入を最大限に得るためではなく、少しでも魅力的な店を起業したいと考える若者がチャレンジできる場を提供することにあり、パサージュがその受け皿としての役割を果たせるように、起業家がステップアップしていける土壌を整備することにある。その最終目標は、人に優しく、人が集う建物を創る。ということにつながっていく。



■ゲートイメージ
スクールで制作したゲートを複製します。経年劣化が気になる部分には高品質な樹脂を貼ります。



■ブリックタイルイメージ
壁の質感をよりリアルに表現するブリックタイルは、リアルな質感をイメージさせ、高級感があがりながらもやさしい雰囲気を演出します。



■グラフィックイメージ
工業用印刷イメージの印刷品質を再現し、デザイン性を高めます。



■看板照明イメージ
LED照明を使用し、看板の照明効果を高めます。

また行ってみたいと思わせる建物があるところに文化は宿る。最後に、これからの抱負をお聞かせください。

吉川 これまでリノベーションという切り口によって、静岡市中心市街地の顔ともいえる代表的な建物をいくつかが手がけてきた。呉服町スクランブル交差点に隣接するクロス9タワーでは、交差点周辺の雰囲気を上品な佇まいに変貌させ、MIRAI E七間町では、ビルをまったく新しいものに変えてしまおうではなく、良い部分は残しながら使い難い部分は使いやすくするといった、良いとこ取りのリノベーションを提



吉川 均 社長